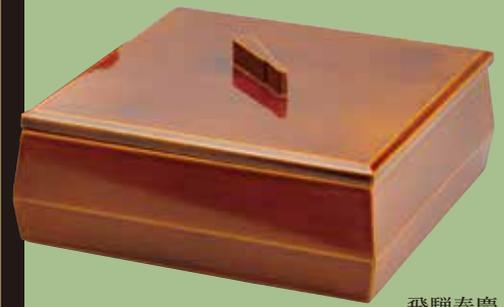




飛驒染



飛驒の 伝統工芸品展



飛驒春慶



小糸焼



山中和紙



飛驒さしこ

入場無料



一位一刀彫

令和6年 12.6 金 _____、19 木
11時～19時 (初日は12時から / 最終日は18時まで)

〔会場〕 伝統工芸 青山スクエア 特別展スペース
東京都港区赤坂 8-1-22

〔実演〕 12月6日(金)～8日(日) 一位一刀彫
12月9日(月)～12日(木) 渋草焼(芳国舎)

〔体験〕 12月14日(土)～15日(日) 小判弁当箱の桜皮とじ



渋草焼(芳国舎)

HIDA

traditional crafts
exhibition

実演・制作体験の詳細(申込み)は
WEBサイトをご確認ください。

<https://www.hidajibasan.com/aoyama.htm>



主催：(一財)飛驒地域地場産業振興センター

飛驒の伝統工芸品展

HIDA traditional crafts exhibition

匠の技が今も息づく、飛驒・高山。

職人の繊細な技が光る伝統工芸品は、心を豊かにし、日常に新しい風を運んでくれます。

飛驒の暮らしの中で育まれてきた工芸品と出会える14日間。

作品に触れ、自分のお気に入りを見つけに、是非ご来場ください。



飛驒春慶 HIDA SHUNKEI

木目の美しさをそのまま活かした、飛驒高山で生まれた漆器。透漆の艶やかな色合い、漆を通して見える木目の美しさ、400年ほど前から伝わる優雅で繊細な飛驒春慶は木地師と塗師の技の融合から生まれた共同作品です。時とともに次第に漆が透け、美しい木目が浮き出てきます。



一位一刀彫 ICHII ITTO BORI

樹齢300年から500年を経た貴重なイチイの木を利用し、大小さまざまなノミを駆使して彫り上げた木工品。加飾、着色をせず、彫刻の技のみで鋭く彫り上げ作品を表現していきます。木目が美しく、時を経るにしたがって艶のある茶褐色に変化していくのが特徴です。



洪草焼(芳国舎) SHIBUKUSAYAKI (HOKOKUSHA)

飛驒九谷、飛驒赤絵、また洪草調と言われる染付を基調とした青白な磁器製品です。強度を得るため高温長時間焼成を行い、それに適した原料、独自に調合した釉薬、絵の具を使うことにより、丈夫さと独自の洪草調の美しさが共存する味わい深い製品を、職人の手造り手描きにより製作しています。



小糸焼 KOITOYAKI

飛驒高山・小糸の地で開窯以来75年、普段使いの食器から、茶道具、モダンなクラフトまで、種々雑多、さまざまな手作りのうつわを作り続けています。原料に飛驒の土・灰を使用した伊羅保(いらぼ)釉が特色です。「現代の暮らしに馴染む和の器」を目指して日々作陶をしています。



飛驒染 HIDAZOME

飛驒染は、石・土・鉄・銅・亜鉛・石炭・松煙等から作られた染料を顔料と言い、それらの顔料を豆汁(呉汁)で溶き、染め付けたものです。戦国時代にこの技法が生まれ飛驒に伝わり、現在は、飛驒の祭りの闘鶏楽・獅子舞衣装等の染付けを行っています。



山中和紙 SANCHU WASHI

飛驒市河合町で、約800年前から伝わる和紙です。原料の楮(こうぞ)の栽培から紙漉きまでの工程を一貫して行っています。雪国ならではの雪晒しという方法で白くした山中和紙は生成の素朴な質感と、破れにくい丈夫さが特徴です。



飛驒さしこ HIDASASHIKO

一針一針手縫いの刺し子は、その昔、長く使用できるように布の補強で行われ、おしゃれに身に着けるため、幾何学模様が施されています。手作りだからこそ温もりが存在し、伝統の模様や図案にとらわれず、伝統とモダンを兼ね揃えた耐久性の高い商品は、何十年も使えると言われていています。

令和6年 12.6 金 _____ 19 木
11時～19時 (初日は12時から / 最終日は18時まで)

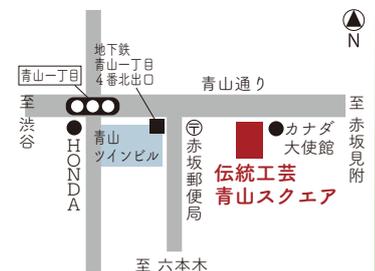
〔会場〕

伝統工芸 青山スクエア 特別展スペース
東京都港区赤坂 8-1-22

〔お問合わせ〕

(一財)飛驒地域地場産業振興センター
TEL 0577-35-0370

伝統工芸 青山スクエア
TEL 03-5785-1301



この事業は、岐阜県・高山市・飛驒市・下呂市・白川村からの助成を受けています。